

一 妙樂大師の釈に末法之初 冥利不無の釈の事

仰せに云はく、此の釈の意は末法に於て冥の利益、迹化の衆有るべしと云ふ事なり。此の釈は藥王品に「此經即為閻浮提人病之良藥、若人有病得聞是經、病即消滅不老不死」と。此の經文の意を底に含めて釈せり。妙樂云はく「然るに後五百は且く一往に従ふ。末法の初め冥利無きにあらず。且く大教の流行すべき時に擲る。故に五百と云ふ」と。仍って本化の菩薩は顕の利益、迹化は冥の利益なるべし云云。